

公民館は社会教育施設、見直しは慎重に！

早期療育施設整備の計画はどうなったのか？

—市議会9月定例会での高橋美博議員の一般質問から—

公民館の位置づけ見直しの理由は何か

市長の今年度施政方針 「…公民館の地域活動拠点としての強化を図り、「地域コミュニティの力」を「袋井の力」へつなげていけるように、再編に向けて取り組んでまいりたい…」

生涯学習課の事務事業方針 公民館活動について、「より時代に見合った形で、地域コミュニティ活動を展開できるよう、公民館の位置づけや機能を見直していく」

公民館は地域に密着した活動で、なくてはならない施設

問 袋井市の公民館は小学校区単位に設置され、地域に密着した運営・活動がなされ、市民になくてはならない施設となっているが、どう評価をしているか。

答 複数の公民館で文部科学大臣表彰を受けるなど全国的にも高い評価をいただいている。それぞれ地域において様々な活動が活発に行われ住民にかかせない重要な施設となっていると認識している。

問 見直しが必要と判断された問題点・課題はなにか。

答 当初は社会教育事業が中心だった公民館も地域コミュニティ活動を取り扱い、業務量が増え、公民館職員の勤務体制などの見直しや増加した業務の調整が必要となっている。

問 庁内検討会の体制と検討テーマはなにか。

答 地域振興課、企画政策課、生涯学習課の3課で設置。公民館長や自治会連合会長からの聞き取り調査を行い、地域コミュニティ事業に対するニーズが年々高まってきていることがわかり、将来的には「生涯学習の場としての公民館機能」と「地域コミュニティ活動の拠点機能」を併せ持った施設になるよう目指したい。

問 市の目指す公民館の将来ビジョンを示し、市民の合意を得るべきではないか。

答 自治会・住民などから意見を求め、公民館を核とした市民活動状況や住民ニーズ等を把握し、利用しやすい活用しやすい施設づくりを目指していく。

公民館法の位置づけ大切、所管の変更、名称変更は問題

問 教育委員会から市長部局への所管の移管や、社会教育施設としての公民館からコミュニティセンター等名称・機構の変更も考えているのか。

答 市の事務の所管に関することや、名称・機構の変更も含め、庁内検討会で公民館の方向を定めていきたい。

問 袋井市はこれまでにスポーツの所管も市長部局に移管されている。生涯学習の中心となる公民館もという教育委員会が各種課題に連携して取り組めなくなるとの懸念もある。教委内でも協議されたか。

答 社会教育と学校教育がそれぞれの役割を果たしながら偏ることなく、地域の特性を生かし特色ある教育が有機的に連携することが大事と認識している。

問 公民館長、自治会連合会長への聞き取りの結果は。

答 市からの依頼が多すぎる、窓口を一本化して整理してほしい。業務増に合わせて職員の増員を望む。社会教育活動は独立していく必要、統合は心配。公民館が

市役所の出張所になる恐れがある。・・・などである。

問 自治会連合会会長会議で来年度実施の方針が出されている。慎重な対応を求めたい。

答 機構、名称を変えたりするのは二義的問題。地域活動の拠点としてよりうまく広範囲の活動ができるような方法を探っていきたい。

早期療育システム構築は重要課題

発達障害を中心とする特別な教育支援の必要な小学生の割合は7.5%ともいわれている。早期療育は障害の改善や軽症化など良好な療育効果が期待できる。また、二次的情緒障害を防ぐなどその効果が期待されている。

問 平成19年10月の検討委「報告書」から2年経つがこの間どのような対策を進めたか。

答 療育支援ネットワーク連絡会を2月に1回開催、幼保での指導が困難なケースの検討を行っている。療育研修会（基礎研修）を5回開催。発達障害学習会を10回開催。さらにステップアップ研修を実施するなどシステム構築に向けた連携や研修をすすめてきた。

東園学園組合との加入協議の状況は

問 システムには核施設が必要で、市は早期療育施設の整備、その運営主体は東園学園組合への加入が適当との方針をだしているは、組合との協議状況はどうか。

答 施設に余裕がなく新たな財政負担も必要となり、課題も多い。現段階では大変難しいものがある。

現山梨幼稚園園舎を活用し「つなぎの施設」を開設する

問 袋井市は行政の谷間となっている。市の障害福祉計画には施設完成までの「つなぎ施設」の計画がある。開設の準備と実施予定の事業はどうか。

答 現山梨幼稚園の園舎の跡地を利用して平成22年度の開設をめざしている。3歳までの親子教室、幼稚園保育園との並行通園ができる施設となる。

問 日中一時支援サービス実施もできないか。

答 つなぎ施設の利用状況、東園学園での動向を充分検討しながら最大限の努力をしていく。

児童デイサービス拡充を望む声に応えて

利用者の希望に応えられる専用施設と体制を

問 障害児の放課後児童クラブを実施している浅羽北小の「つばめの家」、高南小の「そよかぜ」ともに需要が増加し、希望に応えられない状況にある。専用施設を設置するなどサービス拡充を求めるがどうか。

答 専用施設の設置に向けての検討を行っていくが、当面は利用者の増加に少しでも対応できるよう支援員の増員を図っていきたい。

日本共産党

袋井市議団ニュース

発行 2009年9月17日